

のびやか



60号

寒中お見舞い申し上げます

2015年がスタートしましたが、あっという間に2月となりました。時が過ぎるのは早いとあらためて実感いたします。寒さが厳しい中、通園施設や保育所では、子どもたちの元気な声がこだましていることと思います。

今年はどんな一年になるのでしょうか。みなさんがたてた計画や目標はすすんでいますか？

新たな夢や希望を抱きながらも、今まで積み重ねてきたことを継続していくことの大切さも感じております。

今年の3月末には、「児童発達支援センター」の地域支援（障害児相談支援及び保育所等訪問支援）必須化猶予の経過措置が終了となる予定です。また、4月からは、障害福祉サービスを利用するためには、原則としてサービス等利用計画の作成が必要となっていきます。社会情勢の変化に対応しながら、誰もが地域社会の中で適切な療育・発達・子育ての支援が受けられるように、地域の皆様と一緒に考え、取り組んでまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

平成27年2月吉日



右下の写真は平成26年10月から11月にかけて3回連続開催した地域療育研修会の一コマです。研修会の内容については、7ページの記事をご参照ください。



目次：

「障害者スポーツ」6	2～3
地域の事業所紹介	4～5
「卒業生からの手記」5 入所・通園部門	6
地域療育研修会 実施報告 読書コーナー	7
掲示板	8

「シリーズ「障害者スポーツ」」6

青い鳥医療福祉センター 療育支援課長 筒井恵二

シリーズ「障害者スポーツ」第4、5回目は、愛知県障害者スポーツ大会の陸上競技、水泳競技、卓球競技についてお話しさせていただきました。

今回は、愛知県障害者スポーツ大会の残りの個人種目フライングディスクとボーリングについてお話しします。

【フライングディスク】

フライングディスク競技の種目としては、アキュラシーとディスタンスがあります。

◎アキュラシー

アキュラシーは、ゴールまでの距離が5mのディスリート・ファイブ（5m）、ゴールまでの距離が7mのディスリート・セブン（7m）に分かれています。大会では、どちらかを選択して行います。

以下は用具と簡単なルールです。

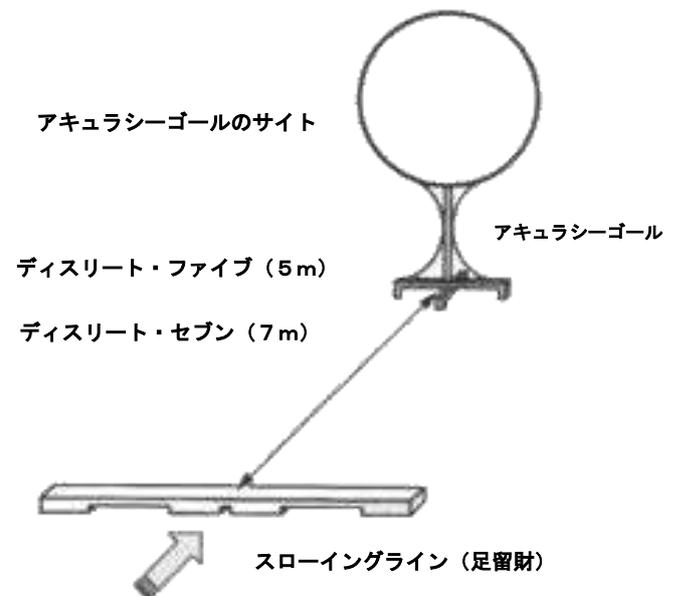
- アキュラシーゴール（標的）は直径（内径）91.5cmの円形で、円形の下部は地面から61cmの高さとなっています。
- 競技用ディスクは、日本障害者フライングディスク連盟公認の「ファーストパックモデル」直径23.5cm、重量100±5gとなっています。
- プレーヤーは10回連続して試技を行い、得点はディスクが地面に触れずに直接アキュラシーゴール（標的）を通過した回数となります。
- プレーヤーが視覚障害者の場合、アキュラシーゴール中央を音源で知らせることができます。
- 得点と同じであった場合、10回（投）の通過過程において第1得点を先に取得した者が上位となります。

第1得点と同じであれば第2、第3得点を先に取得した者が上位となります。

得点及び通過過程も同じであった場合、上位3名の決定にあたっては、3回（投）の再スローイング（再投）によって順位を決定し、その他の者については同順位となります。

- プレーヤーがスローイングライン（足留材）の上部または外側の地面に触れたときは無効とします。

無効となったスローイングは1回として数えますが、ディスクがゴールを通過しても得点とはなりません。



◎ディスタンス

ディスタンスは、競技区分がレディース・スタンディング（女子立位）、レディース・シティング（女子座位）、メンズ・スタンディング（男子立位）、メンズ・シティング（男子座位）の4区分に分かれて競技をします。

- プレーヤーは1回のテストスローイング（ディスクは競技用と同規格で黄色）と3回

の試技を行い、記録は3投中最も遠い地点を計測します。

- 距離推測は、スローイングライン中央地点から、ディスクが最初に地面に触れた点までとし、有効範囲はスローイングラインの前方180度以内となっています。
- 計測は1cm単位とし、メートルで記録し、mm単位は切り捨てることになっています。
- プレーヤーがスローイングライン（足留材）の上部または外側の地面に触れたときは無効となります。無効となったスローイングは1回として数えますが、計測はしません。

組み分けは、男女別で少年の部：19歳以下、成年の部：20歳～35歳、壮年の部：36歳以上となっており、それぞれの組に分かれ競技は行われます。

ボウリング	
記録	0

ルールは一般の大会と同じです。

5 フライングディスク競技

	フライングディスク		ディスク	
	ディスクA	ディスクB	種別	距離
競技種別	●	●	●	●
種別				
種別				
種別				



2015全国障害者スポーツ大会
わかやま大会マスコット
「きいちゃん」



[ボウリング]

ボウリングは、知的障害が対象の競技です。ゲームは、スクラッチ 2 ゲームマッチでデュアルレーン方式〔1つのボールリターンを共有する2本のレーンを使用して投げる方式。(1ボックス使用することになります。)フレーム毎に、左右交互のレーンを使用します。〕で行います。



2015全国障害者スポーツ大会
わかやま大会マスコット
「きいちゃん」



2015 紀の国 わがやま大会

開催時期

2015(平成27)年10月24日(土)
から10月26日(月)

大会マスコット
きいちゃん→



地域の事業所紹介 Part16

「名古屋市 東部地域療育センター ぽけっと」

（福祉型児童発達支援センター・あいの風診療所） 訪問

今回は名古屋市千種区の「東部地域療育センター ぽけっと」を訪問させていただきました。施設を見学させていただきながら、副所長の加藤さんにお話を伺いました。



名古屋市には中央療育センターをはじめ、西部、北部、南部地域に療育センターがあり、東部地域（千種区・守山区・名東区）だけ未設置という状況があり、設立に向けた地域の期待は大きかったそうです。東部地域療育センターの設置運営法人として、発達センターちよだ、南部地域療育センターそよ風等を運営する社会福祉法人名古屋キリスト教社会館が選定され、平成26年6月に開設されたことで全市をカバーする支援体制が整いました。当初は4月開所という予定でしたが、建設の遅れなどで2ヶ月間遅れるなど船出までは少し慌ただしかったです。これまでの事業運営の経験を活かし、なんとか乗り越えられたそうです。

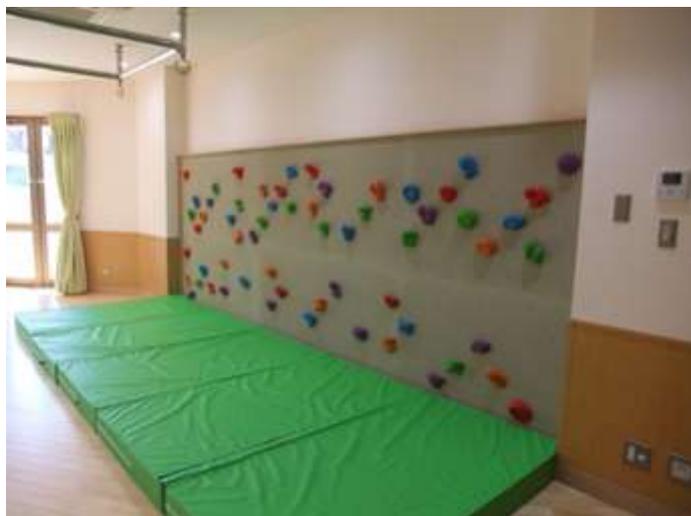
療育センターは主に就学前の子どもの発達や子育ての不安や悩みなどを相談するところで、障がいのある子どもとその家族が地域で安心して暮らすために、発達相談、診察、リハビリテーション、日々の療育などの発達支援が提供されています。

1階は療育スペース（児童発達支援・療育グループ）となっており、園庭を取り囲むように配置された保育室は陽あたりもよく、木材も多く使われており、あたたかな雰囲気でした。また、指を挟まない扉など細やかな配慮がなされていました。



保育室・ホールなどには遊具を吊るす金具が設置されており、身体を使った遊びが提供できるようになっています。また、ホールにはクライミングウォールがあり、温水プールも1年中使えるようになっているなど、設備面も充実していました。

児童発達支援は定員40人（8人クラスが5クラス）で、対象は療育を希望する0歳から就学前の子どもとなっており、現在は41人が利用されています。1年目ということもあり、待機している子はほとんどいないようですが、療育グループに通っている子どもは増えてきているそうです。





開所から半年が経過する中で、療育グループの保育室や駐車場の不足、発達相談の待ち期間が長いといった状況がでてきているそうです。発達の気になる子どもへの支援が充実していくなかで、療育センターの役割はますます大きくなっていくように感じます。開所から間もない施設ですが、今後の事業展開が楽しみです。

(療育支援課 尺土)

通いはじめは親子で通園し、年齢や子どもの様子を見ながら、単独通園に移行していきます。2歳児以下は週4日、3歳児以上は週5日通園しており、水曜日は親子療育となっています。療育は10時から15時までで行われており、3台の送迎車で送迎も行っています。

2階は「あいの風診療所」となっており、こちらも誰もが訪れやすく、子どもたちがくつろいで過ごせるようなあたたかな雰囲気でした。

常勤医は小児科医師（所長）のみで、整形外科と耳鼻咽喉科は週1日、児童精神科は月1日の診察となっています。本来は発達相談から支援がはじまるのですが、発達相談の予約が混んでおり、療育グループに参加しながら発達相談を待つ状況があるそうです。

就園前の子どもを対象とした週1回の療育グループ（てくてく）には、150名ほどが通われており、療育センターだけで実施することができず、スタッフが出かけての出張療育も実施しているそうです。また、幼稚園・保育園に通っている子どもを対象とした月2回の並行グループ（のびのび）もあり、幼稚園・保育園の担任に参観してもらい、情報共有するなど、地域との連携にも力を入れています。また、地域ケア事業ということで、保育園、幼稚園、学校等への巡回訪問なども行っています。

このように、地域療育センターへの期待は大きいいため、地域の関係機関との連携をこれから充実させていくことが課題とのことです。



■児童発達支援センター

定員	40名（8人クラス×5クラス）
エリア	千種区・守山区・名東区
登園日	月曜日から金曜日 （週1日は親子通園日）

■あいの風診療所

診療：小児科・整形外科

耳鼻咽喉科・児童精神科

各種検査：脳波・聴力・レントゲン 等

リハビリテーション（理学・作業・言語聴覚療法）

★お問い合わせ★

「東部地域療育センター ぽけっと」

住所；名古屋市千種区猫洞通1-15

電話；052-782-0770

FAX；052-782-0771

E-mail；pocket@shakaikan.com

なのはな棟 卒業生からの手記 「自立にむけて」 その5

明けましておめでとうございます。今年も宜しく願います。もう2月ですね。今年29歳で三十路なので結婚したいと思っています。さて、後半戦は、どうしようかな～？ サマリヤに入って3年目くらいに家探しをはじめました。約20件回って、最後の1件で決めて、大家さんに交渉してくれて家賃を5万5千円にしてくれました。場所も昭和区で近くに、コンビニとケーズデンキがあるからしょうがないと、思いましたけど、今思えば部屋も狭いし、高いと思いますので、ゆっくりと探せばよかったかなあと後悔していますね。でも、家賃も高いので、もうすぐまた家探しをしようかなあと考えています（市営住宅にも応募する予定です）

今いる部屋はもうすぐ4年になり、人生いろいろでした。お金が苦しい時があったり、友達が亡くなったりして、生きるのは大変やなと改めて思いました。人生というのは、何が起きるかわからないし、もし、僕が明日急死するかもしれないね。これは、神様が決めることさ。

ひとつ感じたのはやはりAJU以外でも人の繋がり（友達）を持つことが大切なんだと思いました。例えば、辛い時は遊びにいったり、お互いの悩みを聞いて元気になったりするから、本当に助けてもらいました。入っている

ヘルパーさんに対して感謝の気持ちの表し方や頼み方、このヘルパーさんは、何が得意とか、どこが不得意なのかを分からないといけないなあと、4年間かかって分かりはじめてところです。また、自分の悪いところも分かって、なおしているところです。なかなかおしたいと思っていても時間かかるものですね。サマリヤを出て4年間で本当に楽しいことはと言われると、AJUで韓国に研修に行かしてもらったことですね。

実は3年前くらいから不眠症になって、毎日眠れなくて、寝ても3時間くらいで覚めてしまい、仕事に行ってもだるくて、何度も失敗をして人間関係もうまくいなくて壊れて、何度も死にたいと思いましたよ。現在はくすりで寝られるようになったけど、一度泥水を味わうと「この野郎」という気持ちで這い上がっていく強い気持ちなるんだ。だから今の自分があるし、周りのサポートがあったから生きている。感謝しているさ。仕事も順調に大きな仕事を頼まれるようになったけどさ、自分はまだ満足していないし、もっと自分の気持ちとか強くなって、いつかみんなに「君に任せた」と言われるまで頑張りたいと思いつつ今もやっています。プロレスみたいにかっこよくいっちゃったね（笑）

（阿部 真澄）

入所・通園部門 平成26年12月5日 サンタの慰問

実はサンタさんは、とっても大忙し。たくさんのお子どもたちが待っているから。それでも、今年もサンタさんはフィンランドから青い鳥に来てくれました。

みんながとても楽しみにしていたからかな！



プレゼントをもらった子どもたちから、サンタさんへ、お礼の歌をうたったり、サンタさんの切り絵を作ったりました！



地域療育研修会 実施報告

実施日：平成26年10月17日・10月31日・11月14日（全3回連続研修）

当センターでは、愛知県からの委託事業である「障害児等療育支援事業」の一環として、地域において障害児（者）の療育に携わっている方々にむけての地域療育研修会を実施しています。今回は、昨年10月から11月にかけて実施した地域療育研修会（インシデントプロセス法による事例検討会）の報告をいたします。

インシデントプロセス法による事例検討では、研修参加者の一人が提供するインシデント（自分が困った出来事・場面）について、参加者が「自分ならこうする」を考え、その裏付けとなる情報の収集と整理を行ない「自分ならこうする」の内容の検討を重ねたうえで、それぞれが発表していきます。この研修の目的は、①出来事を具体的に振り返ることで問題の起こり方や別の対応策を思いつくこと②他の人の考えを聞くことで、別の視点や関わり方に気づくこと③参加者全員が自分の問題として主体的に考え、他者のいろいろな考え方に気づき、視点の幅を経験すること、などです。今回は、療育施設職員6名が参加され、3回ともに、それぞれの療育施設で実際に起きている場面を提示してもらいました。参加者が自分なりの考えをまとめていき

ながら、それを踏まえて他者の考えを共感的に聞くことを意識してもらいました。

ファシリテーターが、意見や情報を整理し焦点を定めていくことで、それぞれの参加者が自分の問題として考えることができるようになっていき、他の参加者の意見を共感的に聞くことへの意識も高まっていったと感じました。それによって検討内容の共有感も強まったと思います。

各参加者からは、「視点、考える幅が広がった」「様々な意見を聞くことの大切さを感じた」「情報収集することで内在する問題が明らかになった」「意見交換して問題が整理されていった」などの感想がありました。

また、研修を通じて、他の市町村の施設の職員と意見交換や情報収集を図ることもできたようです。

当センターとしては、今後も地域療育研修会を継続して実施していく予定です。研修会に対するご要望やご意見があれば、地域療育担当まで、お知らせください。

（地域療育担当 西口）

読書コーナー

ねこのピートーだいすきなしろいくつ」

エリック リトウィン（著）、ジェームス ディーン（イラスト）、大友 剛（翻訳）
出版社：ひさかたチャイルド

自分の子どもの保育参観のときに読み聞かせがあって、初めてこの絵本を知りました。

ねこのピートは新品の白い靴でお出かけします。

嬉しくて「白いくつ、かなり最高〜！」と歌いながら歩きます。

ところが、イチゴの山に登ってしまい靴が真っ赤になってしまいます。

そこで保育士の先生が「ピートは泣いてる？」と聞くと、

子どもたちがすかさず「泣いてな〜い！」

そしてピートは「赤いくつ、かなり最高〜♪」と再び歩き出すのです。

その後もピートは様々なハプニングに見舞われますが、その度に歌って前向きに歩き出します。陽気で前向きなピートの姿と、子どもたちがピートと一緒に歌う姿に癒される絵本です。

（看護師 武田）



